

展示品の
みどころ

かすがみょうじんようごうず
春日明神影向図

重要文化財
絹本着色
縦61.1cm 横33.7cm
鎌倉時代 正和元年(1312)
大阪 藤田美術館



本図は貴族が夢に見た春日の神の姿を、絵師に描かせたものである。絵の下方に貼り付けられている紙に、本人がその経緯を記している。

春日社を信仰した鎌倉時代の貴族の一人である鷹司冬平(1275~1327)は、夢中、御車に乗った東帯姿の春日大明神が自邸の北側の庭に影向する様を拝した。冬平がひざまづく、大明神は銀色の袋に包まれた書を手渡したのでこれを受け取った。すると目が覚め夢であったと気付いたという。

この時の大明神の姿を、宮廷で活躍した当世一流の絵師である高階隆兼に描かせたのがこの絵である。上方の春日社本地の五仏は、夢には見なかったが絵画化に際し描き加えられたという。

闇深い深夜の庭に御車が留まっているが、霞に紛れ神の姿はすべて見えない。しかし御車下の地面は、静謐な銀色に輝き、そこに神が現れたことを知らせる。夢現のあわいのうちに神が影向する雰囲気を見事に描き出した傑作である。

北澤菜月(当館学芸部主任研究員)

◆5月22日(火)~6月10日(日)
創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」にて展示

てんじんざぞう
天神坐像

重要文化財
木造・彩色
像高94.9cm
鎌倉時代
正元元年(1259)
奈良 興喜天満神社



奈良県桜井市の興喜天満神社の主神像。同社は古来靈験の称えられた長谷寺の鎮守であった。東帯姿の男神像で、像内体部に墨書銘があり、正元元年に善阿弥陀仏という人物の勧進によって造立された与喜大明神の御正体であるという。像内頸部には六花形ないし六葉形の銅鏡が納入され、鏡面に十一面観音菩薩立像が線刻される。平安時代末期ないし鎌倉時代初頭には、天神の本地は十一面観音と定まっていた。この線刻十一面観音像は長方形の方座に立つが、ここには長谷寺本尊十一面観音菩薩像のイメージの投影を読むことが可能だろう。さらには鎌倉時代前期の成立と考えられる『長谷寺靈験記』には、天禄二年(971)に長谷寺僧行円が加賀白山御前峰に参詣した際、白山妙理権現の本地である十一面観音の影向を見、その頭光の中から飛来した鏡を懐に入れて寺へ帰り、山内に権現を祀ったとする説話が見える。本像納入の鏡に刻まれた十一面観音菩薩像には、以上のような複数の性格が重層的に重ね合わせられているのだろう。

像の作風は男性的で、烈しい忿怒相ながら品を失わない。鎌倉時代中期の優れた作品であり、慶派の流れに属する仏師を想定するのが筋であろう。

岩田茂樹(当館学芸部主任研究員)

◆なら仏像館名品展「珠玉の仏たち」にて展示

開館日時(4月~6月)

■開館時間 / 午前9時30分~午後5時
・金・土曜日は、特別展「国宝 春日大社のすべて」は午後7時まで、名品展は午後8時まで開館
※入館は閉館の30分前まで

■観覧料金 特別展 国宝 春日大社のすべて

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人	1500円	1000円	500円
団体	1300円	800円	300円

※団体は20名以上です。
※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※この料金で、名品展(なら仏像館・青銅器館)も観覧できます。
※本展の観覧券で名品展(なら仏像館・青銅器館)もご覧いただけます。
※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は、当日券を400円でお求めいただけます。

■休館日 / 毎週月曜日、ただし4月30日(月)は開館
★無料観覧日(名品展のみ) /
5月5日(こどもの日)、5月18日(国際博物館の日)

■観覧料金 名品展

	一般	大学生	高校生以下
個人	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

※団体は20名以上です。
※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は無料です。
※毎月22日にご夫婦で観覧される方は、各半額になります。
※中学生以下の方と一緒に観覧される方は、団体料金を適用します(子どもと一っしょ割引)。



[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車
※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。